



H28.3.4 2月定例岡山県議会にて

# 県議会だより



## 県議会議員活動 取り組みの様子

H27.5.3 ホンダジェット視察 (岡南飛行場にて)

H27.5.5 岡山県戦没者奉慰霊祭 (岡山県護国神社にて)

H27.6.6 木下健二 津山市議会議員就任祝賀会 (津山国際ホテルにて)

H27.7.7 県内主要農業団体陳情 (議長応接室にて)

H27.7.10 好適環境水の技術視察 (岡山理科大学にて)

H27.7.21 TPP対応への取り組み視察 (農林水産省にて)

H27.7.21 おかやまブランド普及促進について視察(とっとり・おかやま新館にて)

H27.7.21 農業観光への取り組み視察 (新湯市アグリパークにて)

H27.7.30 伍協牧場の取り組み視察 (農事組合法人 伍協牧場にて)

H27.7.30 津山地区木材組合の取り組み視察 (津山総合木材市場にて)

H27.7.31 木質バイオマス利用施設の視察 (真庭バイオマス発電所にて)

H27.7.31 CLT工場視察

H27.8.1 ごんごまつり総踊り

H27.8.3 次世代フルーツ生産・ブランド化への取り組み視察(井原市青野ぶどう団地にて)

H27.8.6 陸上自衛隊 日本原駐屯地視察

H27.9.1 岡山県立津山東高校 東雲祭にて

H27.9.3 鳥取岡山県境議員総会に参加 (鳥取県日南町 町議会議場にて)

H27.9.11 国際シンポジウム「日豪関係の未来」(鳥取県日南町 町議会議場にて)

H27.9.12 岡山県産生寺支援学校 運動会にて

H27.9.15 サッカー女子ワールドカップ カナダ大会 準優勝祝賀会(ANAクラウンプラザ岡山ホテルにて)

H27.10.8 燃料電池車 トヨタ自動車「MIRAI」イワタニ水素ステーション芝公園にて

H27.10.11 第39回全国育樹祭 (岐阜県掛川市岡谷緑地公園にて)

H27.10.18 大隅神社にて

H27.10.25 津山市「徳守神社例大祭」にて

H27.11.1 重要伝統的建造物群保存地区 (津山市城東地区にて)

H27.12.23 岡山空港フェスティバルにて岡山県立水島工業高校製作 有人飛行機「エアロメア」視察

H28.1.10 津山市消防団 初出式 (吉井川河川敷にて)

H28.2.10 おかやまテクノロジー展2016 (コンベックス岡山にて)

重機型ロボット「スーパーガジラ」

山本先生並びに皆様方には、県政推進にあたり格別のご理解とご協力を賜っており、厚くお礼申し上げます。

知事就任以来、本県の未来に好循環をもたらす「教育県岡山の復活」「地域を支える産業の振興」など重点戦略を中心に施策を着実に推進して参りました。これからも、すべての県民が明るい笑顔で暮らす「生き生き岡山」の実現に向け、全力で取り組んでまいります。

山本先生におかれましては、県議会において、農林水産委員会副委員長として、農林水産業の振興のため尽力されるとともに、決算特別委員会副委員長として、本県の一般会計、特別会計等の決算状況並びに事業成果について、厳正なる調査・審査に全力で取り組んでおられ、心から敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

今後とも、津山市並びに鏡野町、勝央町、奈義町、そして岡山県の発展のため、先生の力強いご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、山本先生の益々のご活躍、皆様方のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。



岡山県知事  
伊原本 隆太



岡山県議会議員  
山本 雅彦

発行／山本雅彦

〒708-0036 岡山県津山市南新座34  
TEL.0868-32-2922 FAX.0868-32-2955  
E-mail masa-yama55@tenor.ocn.ne.jp

発行日／平成28年3月31日



こんにちは、山本雅彦です。

皆様には、ご清栄にて活躍の事とお慶び申し上げます。

昨年四月から早くも二年が経過いたしました。県民の皆様から負託を受け、全力で岡山県政に取り組ませていただいた二年でありました。

少子高齢化の波が押し寄せる激動の時代です。国も「千兆円を超える借金を抱え、産業や農林業のあり方やまた、行政のあり方も時代の変化に合わせて時代を先取りしながら大きく変わって行かなくてはなりません。

「水・土・光・温度」素晴らしい自然に恵まれた岡山。岡山県の豊かさ・良さを引き出し、政策に活かす。緊張感と集中力を持続し、県民皆様の声を県政に反映させるべく、現地現場主義で取り組んで参ります。どうぞよろしく、お願い申し上げます。

皆様のそれぞれの持ち場での活躍とご多幸を心からお祈り申し上げます。



つやま黄金菜

### 「岡山創生」平成28年度予算の重点項目

しごとづくり	
国際定期路線開設事業 岡山空港の国際定期路線の開設を目指しアジアの航空会社にPR	2100万円
戦略的企業誘致の推進 企業誘致関係補助金の一括交付、市町村の産業団地開発を支える補助制度の拡充	15億3000万円
中小企業の稼ぐ力の向上 食品産業の販路拡大、新産業や高付加価値商品の開発支援	6300万円
航空機産業の拠点づくり 航空機産業クラスター形成への取り組み	560万円
岡山DESTINATIONキャンペーン JRと連携した観光キャンペーン	1億8300万円
インバウンド(外国人観光客の誘致) アジアでのキャンペーン	5300万円
農地集積加速化による競争力強化 水田農業の競争力強化、大規模経営体への助成	6億円
ひとづくり	
私立学校の助成拡大 私立学校への助成	68億6000万円
小児化突破プログラム 放課後児童クラブや地域子育て支援拠点の整備	20億8800万円
小児化突破プログラム 第3子以降の保育の無料化	3億円
不登校問題への対応 登校支援員のほかスクールカウンセラーやソーシャルワーカーの配置	3億5700万円
教師の教える技術の向上 中学校での放課後学習サポート、教師業務アシスタントの設置	1億700万円
子供の貧困給付金事業 年収250万円以下の世帯に対し教科書、教材費など支給	4億5200万円
まちづくり	
県防災行政無線の機能強化 防災情報の多様化に対応可能な機能を備えた一斉司令システムの導入	7億3600万円
生き生き拠点形成支援事業 生活圏内の拠点に日常生活サービス機能を集約し拠点と中心都市を公共交通サービスで結ぶ	4800万円
アートプロジェクト岡山 作家による滞在制作を地域資源をしたアートイベントを実施	1億円
地域医療介護の総合的確保 地域における医療及び介護の総合的な確保	79億2900万円
ふるさとへの川リフレッシュ事業 河川の雑木伐採、河道の掘削	3億円

### 現在の役職

- ◎農林水産委員会 副委員長
- ◎決算特別委員会 副委員長

### 所属議員連盟

- ◎次世代に跨れる児島湖・湾を考える議員懇談会
- ◎岡山県森林・林業活性化促進議員連盟
- ◎さわらの会
- ◎北朝鮮による日本人拉致問題の早期解決を図る岡山県議会議員連盟
- ◎がんばれ!ファジアン/岡山県議会応援団
- ◎安全・安心の岡山づくり推進議員連盟
- ◎岡山県スポーツ振興議員連盟
- ◎がん対策推進岡山県議会議員連盟
- ◎岡山湯郷Belle県議会サポーターズ
- ◎岡山シーガルズ県議会サポーターズ
- ◎鳥取・岡山県境議員連盟
- ◎FC吉備国際大学Charme県議会サポーターズ
- ◎難病対策岡山県議会議員連盟
- ◎書道岡山県議会議員連盟

### 山本雅彦プロフィール

- 生年月日:昭和34年5月30日 ●所属政党:自由民主党 議員
- 所属:津山青年会議所(津山JC) 特別会員、元津山市観光協会青年部 部員
- 学歴:昭和50年3月 久米郡中央町立加美中学校卒業、昭和53年3月 岡山県立津山高等学校卒業、昭和57年3月 日本大学経済学部経済学科卒業
- 職歴:昭和57年4月 第一生命保険相互会社入社、昭和59年4月 富士岡山運輸株式会社入社、昭和60年10月 津山セントラルホテルへ配属、昭和63年6月 あいさわ一部後援会事務所入所 施設秘書となる。平成14年10月 衆議院議員連立一部公設第2秘書採用。平成16年8月 衆議院議員連立一部公設第1秘書採用。平成27年4月に岡山県議会議員に初当選
- 家族:妻 ●血液型:B型 ●星座:ふたご座 ●座右の銘:「長天歌人」
- 趣味:読書(歴史小説・スノイ小説)、ラーメン食べ歩き、スキー、ゴルフ

# 9月議会質問

## 地方創生



### ■市町村への支援について

皆さん、こんにちは。自由民主党岡山県議員の山本雅彦です。まず、このたびの関東、東北水害におかれましては甚大な被害を受けられました多くの皆様は、心からお見舞いを申し上げます。今回、私の初登壇となります。どうぞよろしくお願いをいたします。

私は、4月の県議会議員選挙で、津山市吉田郡勝田郡選挙区から議席をいただきました。同じ選挙区には、私のほかに3名の議員がおられますが、津山市出身は私一人でございます。その責任の重さを受け、努力してまいります。地元津山市では、人口減少問題はもとより、中心市街地の活性化、農林業や産業振興、そして医療福祉、また、教育などさまざまな課題を抱えておりまして、また、津山市やその周辺地域だけでなく、県北の中山間地、過疎地域を抱えているような問題さらには岡山県全体の諸問題の解決、そして県政発展のために少しでもお役に立ちたい、そういう思い、志を立てました。しかしながら、県政の政策や施策のこと、また、現場の状況、議会のルールに至るまで、まだまだ右も左もわからない状況です。今後は、議場にいらしゃいます先輩諸氏の御指導を賜りながら研さんし、また、知事を初め執行部の皆様、職員の皆様の御協力をいただきながら、微力でございますが、精いっぱい頑張らせてまいります所存であります。

地方創生における市町村への支援について知事にお尋ねします。積極的に地方創生に取り組む市町村から、県に対して財政的な支援要請があった場合、事業の先駆性や新規性、あるいは事業実施に当たっての根拠やデータなどの有無、事業計画やロジックなどの確実性など、こういった観点で支援の判断基準を設けるのでしょうか。

続いて県民生活部長にお尋ねします。県内の市町村の地方版総合戦略の策定状況を、今後の見込みも含め、お聞かせください。また、国の上乗せ交付金はどのように行われ、結果は公表される予定なのでしょうか。さらに、不採択となつた事業（県のフォローはあるのでしょうか）併せてお聞きします。

#### 知事答弁

財政的支援のうち、支援の基準については、地方創生は県と市町村が体となって取り組むべきものであり、おかやま創生総合戦略案においても、県は市町村の地域特性を生かした独自の取り組みを支援することとして、具体的には、市町村の総合戦略の策定状況等も踏まえ、今後検討していきたいと存じます。

#### 県民生活部長答弁

地方創生先行型交付金のうち、総合戦略の策定状況等については、現在2つの市町村が策定済みであり、18の市町村が10月末までに、残りの7の市町村も年度内に策定することを目指して作業を進めています。

次に、上乗せ交付金ですが、11月上旬に予定されている交付決定については、国の外部有識者による評定委員の評価を経て行われ、

# 2月議会質問

## 地方創生



### ■加速化交付金の申請

国は地方創生加速化交付金を創設し、地方創生性における取組のレベルアップの加速化を図ることとしており、先駆的な提案を行う自治体に優先的に配分する方針を示しました。本県はどのような分野で施策を申請したのか、先駆生の内容も併せて知事にお伺いします。

#### 知事答弁

加速化交付金の申請についてはありますが、仕事づくりの分野でこれまでの産学官連携に加え、地元金融機関と連携し、その利き力を利用して、本県の誇るものづくり企業の商品開発から販路拡大までをトータルに支援する事業や、民間事業者や真庭市と連携し、C.L.Tの安定供給と効率的な建築手法を全国に先駆けて確立する事業など5事業を申請しております。また、地方の人の流れを促す分野では、市町村や金融機関などと連携しながら、さらなる移住を促進するとともに、移住者や若者を含めた地域住民が体となって進める地域活性化の取組を支援する事業など4事業を申請したところであります。

### ■推進交付金の申請について

国は、地方創生推進交付金の制度設計をしています。この交付金は、従来の縦割り事業だけでは対応しきれない課題に取り組む自治体を応援するため、先駆性として、官民協働、地域間や政策間の連携が求められています。現時点で、この先駆性の観点からどのような事業を申請することを想定しているのか、知事の所見をお伺いします。

#### 知事答弁

推進交付金の申請については、例えば、来年度予算案に計上している「生き生き拠点形成支援事業」は市町村が地域や企業等と協働して行う、小さな拠点の生活サービス機能の集約や地域公共交通の再編などの取組を支援するものであり、国が求める官民協働、政策間連携などの先駆性があると考えられることから申請することを検討しております。

### ■定住自立圏への人的支援について

津山市など1市5町は、地方創生に向けた協議会を組織し、先般、圏域の総合戦略プランを策定しました。来年度からは、このプランの方向性に沿って定住自立圏の形成に向けた取組を進めていきますが、県から協議会に人材支援を行うなど、定住自立圏の形成が加速するような人的面からの支援を果たしていただけないか、知事にお尋ねします。

交付事業は公表されるということです。不採択となつた事業に対する県のフォローは考えませんが、できる限り採択されるよう、交付金申請の際、助言に努めたいと存じます。

### ■地方創生関連事業における県の財政的な支援について

地域の活性化や人口減少の克服など、地方創生には市町村がそれぞれ主体的に取り組んでいかなければならぬことはもちろんのことと思いますが、単独の市町村だけではやはり限界もあり、特に財政的な支援については、県の役割が大きく、市町村にとっては県は頼りになる存在であると思います。そういう意味で、例えば今後機動的に市町村が実施しようとする地方創生の関連事業について、県の財政的な支援の御検討は、ただでないでしょうか。また、政府の2016年度予算の概算要求では、新型交付金1080億円が盛り込まれていますが、知事会での意見や他県の知事の方々からは、少なからず不満が出ているようです。先般行われた中四国サミットにおいても、この新型交付金に関しては、柔軟に活用できる制度に設計すること、規模については思い切った拡大を図ることを国に要望することが共同で採択されています。そこで、国の新型交付金に関して知事のお考えをお聞かせください。

#### 知事答弁

支援の創設については、おかやま創生総合戦略案において、市町村の地域特性を生かした独自の取り組みを支援することとしており、市町村に対する支援のあり方については、今後検討していきたいと存じます。

### ■地域間交通ネットワークと空港津山道路について

今後コンパクトシティを促進する上で、小さな拠点づくりを行う上でも、拠点間をつなぐ公共交通機関の確保や整備は必要不可欠です。市町村内の移動や市町村内のコミュニティをつなぐことは、市町村の役割ですが、地域と地域を結ぶ道路や交通ネットワークの形成、複数の市町村をまたがる公共交通機関の整備などについては、知事のお考えをお聞かせください。

#### 知事答弁

次に、定住自立圏への人的支援についてありますが、おかやま創生総合戦略では、定住自立圏などの構築により、圏域内でのネットワーク化に取り組む市町村に対して、積極的な支援を行うこととしております。

### ■産業振興



#### ■おかやまテクノロジー展の感想

先月開催した「おかやまテクノロジー展2016」は、岡山の機械系ものづくり企業が一堂に会した素晴らしい展示商談会でしたが、知事のご感想についてお伺いします。

#### 知事答弁

今回、優れた加工技術を持つ企業の製品を展示したことで、来場された方々に、技術革新の進展や、これに対応する参加企業の高い技術力を実感していただけたと考えており、私自身もものづくりの魅力と県内企業の底力をあらためて深く認識したところであります。

### ■最新テクノロジーとのマッチングについて

これから日本がそして岡山がどうやって発展していくかに大きく寄与する最新テクノロジーと本県産業とのマッチングについて、何かひらめきはないでしょうか。知事の所見をお尋ねします。

#### 知事答弁

最新テクノロジーとのマッチングについては、おかやまテクノロジー展では、例えば、無線EIT技術を利用した光る折り鶴や、IoT技術を組み込んだ工具など、最新テクノロジーを活用した製品開発が県内で進んでいる現状を目の当たりにし、こうした新たな技術に果敢にチャレンジする県内企業が次々と生まれる本県産業の発展の可能性を強く感じるところであり、県としても、水島立地企業の最新技術の活用やIoTを取り入れた製品開発など、県内企業のイノベーションを加速させる取組が重要と考えたところであります。

### ■津山圏域の発展

#### ■つやま産業支援センターへの支援について

津山市は昨年4月に、つやま産業支援センターを開設し、付加価値生産性の高い産業群の育成に力を注いでいます。津山圏域発展の鍵は、独自の技術を有する木材加工やステンレス加工の産業を伸ばすことにあります。センターは地域内外企業との連携を提案していますが、圏域自治体との連携が不足しています。圏域各自治体とセンターとの連携にさらに関与し応援すべきと思われませんが、知事の所見をお伺いします。

#### 知事答弁

交通ネットワーク等について、県では、県土の強靱化はもとより、産業振興や観光振興などの観点から、地域間を結ぶ道路の整備に積極的に取り組むとともに、地域公共交通の再編に向けた市町村の取り組みを広域的な見地から支援しているところです。これらを通じて、各地域の拠点性を強化し、おかやま創生の実現に努めてまいります。

### ■空き家対策について

昨年11月、空き家対策特別措置法が制定され、今年5月26日から全面施行されました。そこで知事にお尋ねしますが、空き家対策特別措置法制定に関する評価や意見、さらには本県における今後の課題などについて見解をお伺いいたします。

また、土木部長にお尋ねします。県内の空き家の総数ほどの程度ありますが、また、今後県として適切かつ総合的に空き家対策策、移住・定住施策も含めたものを講じていくためには、市町村と協力して、調査やその結果のデータベースを整備しておく必要があると思えますが、いかがでしょうか。

#### 知事答弁

今回の法施行により、例えば除却対象の空き家が危険であることが明白な空き家から、倒壊等の危険のおそれがある空き家に拡大されるなど、非常に大きな前進があったものと評価しています。また、今後の課題として、各市町村が主体的に空き家対策に取り組む中で、建設部局を有しない市町村もあり、対策のばらつきが懸念されます。このため、県では、先月、県関係課、市町村及び関係団体が構成する岡山県空き家等対策推進協議会を設置しており、この協議会を活用して、専門的なサポートを行い、各市町村の足並みがそろつよう支援に努めてまいりたいと存じます。

#### 土木部長答弁

本県の空き家の総数は、平成25年住宅土地統計調査による推計では約14万戸で、そのうち賃貸や売却用、別荘などを除いた空き家は約7万2000戸となっております。空き家の実態把握には、現地調査を実施し、データベース化する必要があります。固定資産税情報等を活用して、既に一部の市町村では調査に着手されているところです。今後は、岡山県空き家等対策推進協議会を活用し、未実施の市町村に対し、空き家調査やデータベース化を促したいと存じます。

### ■再質問

1つだけ、空港津山道路につきまして再質問させていただきます。私は、今年4月、光栄にも県議会議員選挙で初当選させていただきました。登庁させていただいたとき、一番驚きましたのは、県庁ホールで当選証書を読んだときでありました。当選者55人がホールの指定の席に着席されました。当選人の5列の席のうち、前から3列が岡山市、倉敷市選出の先生方で占められていました。数字の上では理解していたつもりですが、県北地域から選ばれた議員の少なさを改めて驚きとともにも実感いたしました。南厚薄薄という言葉は、もう私は使いたくありません。こりゃあ数の少ない我々県北の議員は頑張らなきゃいけないと、その時強く思いました。

#### 知事答弁

つやま産業支援センターへの支援についてですが、私としても津山圏域の産業集積や活性化に向けた各種事業の積極的な展開に大いに期待しているところであります。

### ■産業クラスター形成に向けた支援策について

津山圏域における地域産業政策、いわゆる「産業クラスター」形成、充実へ向けた県の具体的な支援策について、産業労働部長にお伺いします。

#### 産業労働部長答弁

津山圏域の発展のうち、産業クラスター形成に向けた支援策についてですが、お話のように、津山圏域の木材やステンレス加工工業は、他地域にない強みであることから、木材加工では、県が進める「おかやまグリーンバイオプロジェクト」において、津山市バイオマス産業都市構想と連携した取組を行うところです。

### ■ドローンの活用



#### ■災害時の協定について

今年1月、京都府は、災害時に小型無人機「ドローン」を活用する協定を民間の協会と、久米南町は昨年9月に建設コンサルタント会社と結びました。ドローンを活用すれば、災害現場の細部まで記録でき、3D地図の作成も可能で、コスト面でも大変有効です。本県に民間のドローン協会又は支部が設立される情報がありますが、県も「災害時ドローン活用協定」を結んではいかがでしょうか。危機管理監にお伺いします。

#### 危機管理監答弁

ドローンの災害時の協定については、ドローンは被災現場において、上空からの状況把握や被災者の捜索、救助の支援などの活用が期待されることであります。

道路建設には、計画から完成まで10年、20年と時間がかかることもよく理解できます。空港津山道路は、いまだに40キロ以上の区間が事業化されていません。先ほど知事からも、前向きな御答弁をいただきましたけれども、国道53号線は、そしてそのバイパスは、県都岡山市と県下第3の都市津山を結ぶ、また、岡山県のと真ん中を南北に結ぶ県土の背骨、脊髄となる道路だと思えます。過去にも多くの政治家が岡山、津山、津山、岡山間の移動時間短縮を政策の中心に掲げ、選挙にも望まれました。総選挙以前の中選挙区制度から小選挙区制度へ移行して20年が経過し、既に7回の総選挙が現行制度下で行われました。私も、代議士秘書として、また、二民党員として、比較的長い間、選挙、関与してまいりました。中選挙区から小選挙区へ向かう節目の政治の変化も見てまいりました。私が感じます。以前の選挙区時代の時代は同じ選挙区で与党議員同士がよい意味で激しくしのぎを削り合い、緊張感があったように思います。地元から期待される運動が展開されたと思います。また、思いますが、国道53号は西の岡山道と東の東部自動車道に挟まれ、極端に言えば、不幸にもアポケットに入た、忘れ去られた道路だと思えます。

政治は、選択と集中です。知事には、ぜひ岡山、津山間の移動時間の短縮というテーマを政策のフラグ最上位に上げていただきたいとお願いいたします。国土強靱化が掲げられ、折しも関係省庁では、私たち岡山県にと、大変重要な状況も現在生じていると認識しております。知事におかれましては、国へ、そしてまた、関係国会議員への要望活動をさらに強く進めていただきたいと、強く要望し、再質問とさせていただきます。



### ■土木工事の測量設計等について

ドローンを災害時だけでなく、河川の巡視やガムの施設点検に活用すれば、相当な合理化やコスト削減、作業の危険性の低減につながるが、その検討を始めています。さらに、土木工事の測量にドローンを活用することも将来の可能性が高まっておりますが、測量設計にドローンを活用するお考えはあるのか、併せて土木部長にお聞きします。

#### 土木部長答弁

土木工事の測量設計等についてはありますが、お話のように、ドローンの活用は、測量やインフラ点検など様々な分野において合理化やコスト削減等につながるものと考えています。河川の巡視やガムの施設点検など、インフラの維持管理への活用については、現在、国において研究開発中であり、その動向などを注視しつつ、検討してまいりたいと存じます。

#### 土木部長答弁

また、土木工事の測量設計の活用については、国において、測量マテリアルや安全基準が近く作成されると聞いており、この内容を踏まえ適切に活用してまいりたいと存じます。

#### 県警本部長答弁

ドローンの活用については、議員ご指摘のとおり、監視用ではテロ対策用の機材として、飛行中の不審なドローンを空中で捕獲する「迎撃ドローン」を導入しており、長野県警察においても、ドローンを交通事故の実況見分の他、マラソン警備や噴火災害に伴う行方不明者の捜索などに活用しているものと承知しております。

また、民間においても、施設の警備や建築物の保守点検等のさまざまな分野でドローンが活用されていると聞いています。ただ、ドローンに実用に使われるようになっていまだ日も浅く、性能等も日々向上しつつある段階と聞いており、県警察としては、現時点で直ちに具体的な導入計画を検討してはいるものではあります。また、伊予志摩サミット及びG7倉敷教育大臣会合等の大規模警備を控え、平成27年7月に中国管区警察局岡山県情報通信信部において導入したドローンを用い、警戒警備に当たる警備部隊員に対し、不審なドローンへの対処要領等、テロ等の悪用を未然に防ぐための対策について教養を重ねるなどの面で活用は図っております。

